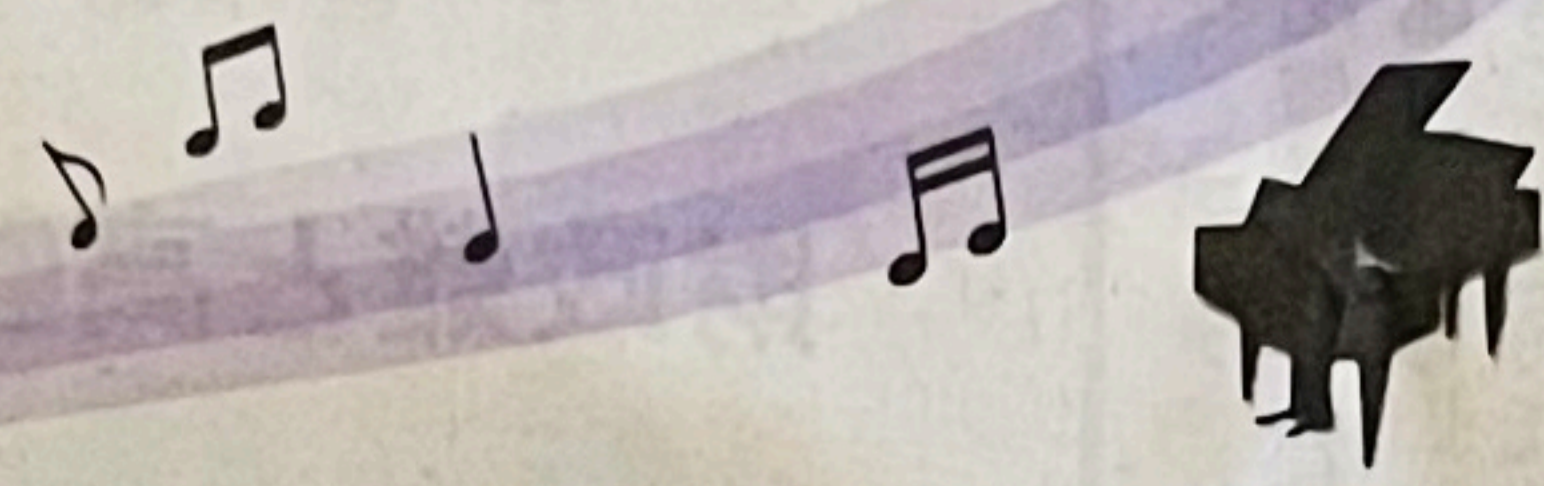


モーツァルトからベートーヴェンへ 探索の旅



昨年11月に6回に及ぶモーツァルト「ピアノ・ソナタ全曲(第1~18番)演奏会」を完結させたピアニスト、久元祐子さん。今年11月からはベートーヴェンの「ピアノ・ソナタ全曲(第1~32番)演奏会」に挑む。モーツァルトからベートーヴェンにかけての時代には、鍵盤楽器の性能や構造も大きく変化している。現代のグランドピアノだけでなく様々な時代や文化圏の楽器を実際に奏で、研究している久元さんは、「音楽の向こう側にある作曲家の心を、巫女。となって音に替え、聴く人の前で表現する」ピアニストだ。



ピアノで「歌える」ピアニストを目指す

「両親は音楽好きではありませんでしたが、私がプロの音楽家になることには反対し、いかにして諦めさせるかと考えました。反対を押し切ってピアニストとなるにはどうしたらいいかと、子ども時代からあれこれ策を講じていました」。初志を貫き、プロのピアニストになる努力を続けられた最大の理由は「ピアノという楽器」そのものの魅力にあった。「ハンマーで弦(ピアノ線)を打つだけなのに歌が聴こえてきたり、オーケストラの楽器のようだったり、弾く人によって全く違う音色が出るのはなぜなのかしら?」という好奇心が夢を膨らませた。



ベゼンドルファー Model 280VC ピラミッド・マホガニーと共に

世界の国際音楽コンクールでは今日も優秀な若手ピアニストが続々と姿を現し、超絶技巧の極限を競い合う。「ピアニストを器乐的、声楽的の二つに分類できるとすれば、私は後者です」と語



ウィーン・サラヨン・オーケストラ ニューイヤーコンサート2023

る久元さん。「歌うことが大好きな私は、F1レーサーのメカニックのような超絶技巧を目指すより、ピアノで歌の歌えるピアニストになりたい」と願う。日本を代表する声楽家の伴奏も積極的に引き受け、歌への関心をもとに、フレーズの呼吸や音色など、人の声に匹敵する音色の妙と多彩さを徹底してピアノで究める。さらに「モーツァルトの時代の楽器の特性を現代の楽器に生かし、私の全身を通じて「発声」される音楽として、聴く人に届けること」に、膨大な時間を費やしてきた。

モーツァルト「全曲」に挑む

久元さんが「全曲演奏」と銘打ち、1人の作曲家のソナタすべてを弾くのはモーツァルトが最初だった。「シリーズの場合、全体を見通した大きな流れ、音の構造を見据え、より自分の考えを浸透させることができます。理想の音をイメージしつつ、少しでも完璧に近づけよう、凡人が天才の音楽を追いかけていく時間は、非常に楽しいものです」。モーツァルトでは18曲のソナタを通じた成長の過程だけでなく、同時代の数多くの作曲家の中で突出して愛されてきた背景や、楽器の発達史も考慮して、6回のプログラムを編んだ。

そして、ベートーヴェンへ

久元さんの「探索の旅」はモーツァルトの次の時代のビッグネーム、ベートーヴェンの世界

へと進む。「彼は枠や既存概念といったものを絶えず打ち破ろう、普通の人ややらないことを実現しようと奮闘した作曲家ですが、最初はモーツァルトに憧れ、学ぶところから出発しました。彼はモーツァルトから多くを感じ取り、受け入れることで自身の創作に生かしていきます。

《悲愴》が演奏された当時の楽器は「フォルテピアノ」と呼ばれ、音域は5オクターヴ(現代のピアノは7オクターヴ)、足で踏むペダルではなく、膝でレバーを押し上げて音量や音色を変化させるものでした。ベートーヴェンが「ソナタ第21番八長調『ワルトシュタイン』」を作曲する直前には「エラーール」というフランス製でありながら英国式の構造を備えた鍵盤の連打や速い演奏を可能にしたピアノをウィーンで修理して使っています。最後の三つのソナタ(第30~32番)では英国製の華やかな音色を響かせる「ブロードウッド」、最晩年はウィーン製の温かみのある音を響かせる「グラーフ」と、ベートーヴェンは目まぐるしく楽器を変えています。きっとウィーンで最も恐ろしい「クレーマー」だったでしょうね(笑)。それによって作曲家と製作者が一体で作る楽器の発展をもたらしました」

11月から始まる「ソナタ全曲」シリーズでは(作曲当時の仕様の)古楽器は使わず、ベーゼンドルファー社のモデル280VCを使用。ウィーンの至宝といわれる名器を作り出すメーカーと久元さんが一体となって完成させたピラミッド・マホガニー製の美しいグランドピアノだ。「ベートーヴェンの時代のウィーンではうるさい音といえは馬車くらいで、街は静けさに包まれていました。コンピューターを使ってどんな音でも人工的に作れる現代は騒音にあふれ、人々の耳は鈍化してしまっています。私は歴史的楽器に触れながら得た弱音の静寂世界にこだわり、ベートーヴェンの精神へと近づいていくつもりです」

インタビュー・文 池田卓夫



ウィーン放送交響楽団との協演

公演情報

4月22日(土) 15:00	7月2日(日) 14:00	10月6日(金) 18:30	11月7日(火) 19:00
神戸文化ホール大ホール	紀尾井ホール(東京)	東大阪市文化創造館	サントリーホールブルーローズ(東京)
神戸市室内管弦楽団 第157回定期演奏会(鈴木秀美 指揮)	ハイドン・フィルハーモニー (エンリコ・オノフリ指揮)	ジャターハーモニー小ホール 特別演奏会	ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ全曲演奏会 VOL.1
ディールアス: 小管弦楽のための2つの小品 グリーグ: ピアノ協奏曲、ベートーヴェン: 交響曲第6番「田園」	モーツァルト: ピアノ協奏曲第9番 変ホ長調 KV271「ジュナミ」ほか	「神童」モーツァルトと「楽聖」ベートーヴェン 天才二人のピアノ音楽	ソナタ第1番、ソナタ第5番、ソナタ第4番、 ソナタ第8番「悲愴」
全席指定 S席4,000円 A席2,000円 発売中 U25(25歳以下)1,000円	全席指定 S席10,000円 A席7,000円 発売中 学生(25歳以下)4,000円	全席指定 2,000円 発売日 一般7月8日(土)10:00~	全席自由 前売 一般4,000円 学生2,000円 発売日 4月1日(土)10:00~
お申し込み チケットぴあ[Pコード:233-698] ローソンチケット[Lコード:56490]	お申し込み チケットぴあ[Pコード:238-705] t.pia.jp イープラス(e+) eplus.jp	お申し込み 東大阪市文化創造館チケットセンター TEL 0570-08-1515	お申し込み チケットぴあ[Pコード:233-764] ローソンチケット[Lコード:32674]ほか
お問合せ 神戸市民文化振興財団 TEL 078-361-7241	お問合せ プロアルテムジク info@proarte.jp	お問合せ 東大阪市文化創造館 TEL 06-4307-5772	お問合せ プロアルテムジク info@proarte.jp

※いずれも未就学児童の入場は不可となります

問い合わせ先 プロアルテムジク TEL 03-3943-6677(平日の10時~18時) info@proarte.jp

◎金澤潤